

1990年4月1日から2016年12月1日まで川崎医科大学総合医療センター

内科を受診または入院された患者さんへのお知らせ

### 課題名：レジオネラ肺炎の診断と治療に関する検討

レジオネラは呼吸器感染症の重要な病原体で、温泉や24時間風呂から感染することが有名です。しかし、感染経路が不明である患者さんも多く、急速に悪化して死に至る場合があります。尿からレジオネラを迅速に診断する検査法が存在しますが、感度が低く多くの症例を見逃すことが分かっています。我々の教室では、臨床像から微生物を絞り込む臨床的診断法の研究を行い多くの成果をあげてきました。レジオネラに関しても臨床的診断法の開発を目指しています。また近年、菌の薬剤耐性化が問題となっており、「薬剤耐性菌アクションプラン」が公表されています。レジオネラに関しては薬剤耐性化が明確となっておらず、その実態を把握する必要があります。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、1990年4月1日から2016年12月1日の間にレジオネラ肺炎と診断された患者さん30名を対象に研究を実施します。研究期間は倫理委員会承認日～2年間の予定です。この研究の成果としてレジオネラ肺炎迅速診断法の有用性が明らかとなり、患者に対する適切な治療法と予防法の選択が可能となります。また、患者さんから培養された分離株の薬剤感受性測定を測定し、薬剤耐性の状況が判明します。

本研究は後方視的研究であり、既存資料（背景、現病歴、身体診察所見、治療方法、臨床経過など）のみを用いた研究であるため、新たな人体試料の採取は行いません。また、個人が直接同定される情報は匿名化を行った後に、データ解析を行うため外部に漏れることはありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では研究責任者の教員研究費のみを使用いたします。総合内科学1教室は本研究の結果に影響を与えるような資金の受入れはありません。

研究成果は学会や学術雑誌に発表することがあります。しかし、個人情報外部に漏れることはありません。また、資料の取り扱いは研究者が所属する教室でのみ行い、外部に提供されることはありません。また、二次利用の際には研究課題について倫理委員会の審査を受け承諾を得て、研究対象者に再度、同意を取ります。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

[問い合わせ先]

研究責任者： 総合内科学 1 准教授 宮下修行

電子メール： [nao@med.kawasaki-m.ac.jp](mailto:nao@med.kawasaki-m.ac.jp)

電話 086-225-2111 (内線 48025)